

# 第17回ヘルスカウンセリング学会学術大会

9月市川

## 学会長インタビュー

筑波大学大学院人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学専攻長

宗像 恒次教授



第17回ヘルスカウンセリング学会学術大会が9月18、19日の両日、千葉県各市川市文化会館で開かれる。大会テーマ及び学会長による基調講演のテーマは「個々が輝く関係性―SATが動かす未来」。

学会長の宗像恒次・筑波大学大学院教授は「個々が輝いて生きられるようになるには、他者報酬型行動から自己報酬型行動を促す人

## 大会テーマ「個々が輝く関係性」 学会長基調講演

の関係性へ変える必要がありません。しかし、人は6歳までの間に生き方がプログラミングされていて、行動を変えたくてもなかなか変えられません。SAT（構造化連想法）の瞑想退行イメージ療法では、胎生期から6歳までのシータ波優位シンポジウムⅠ「SATが動かす医療の関係性」で健康心理療法士ら3人のシンポジストが登壇。医療現場での権力的関係性を動かしながら、患者のウェルビーイングをどう支援するかについてディスカッションする。同Ⅱ「SATが動かす未来」では奥健夫・滋賀県立大学工学研究科教授が最新の物理学を使って、医療・生命

### 人は6歳までに生き方がプログラミング SAT瞑想退行イメージ療法で組み換え

でやりとりする潜在記憶へ介入することで、そのプログラミングを組み変えることができると話します。それにより個々が輝くウェルビーイングを促せるチャンスが生み出せるのです」と話す。基調講演ではSATの瞑想退行イメージ療法について解説する。

シンポジウムⅠ「SATが動かす医療の関係性」で健康心理療法士ら3人のシンポジストが登壇。医療現場での権力的関係性を動かしながら、患者のウェルビーイングをどう支援するかについてディスカッションする。同Ⅱ「SATが動かす未来」では奥健夫・滋賀県立大学工学研究科教授が最新の物理学を使って、医療・生命

かす家族の関係性」ではシンポジスト3人の体験を聞き、親族の関係性を方法的に動かしながら家族の個々のウェルビーイングをどう支援するかを話し合う。

特別講演Ⅰ「ウェラー・ザン・ウェル患者学」ではガン克服してウェラー・ザン・ウェル学会を作った川竹文夫氏が、患者と医者が共に学び、自らを変えていくことでガンになる前よりさらに健康になるという患者学について話す。

同Ⅱ「心と生命の科学」では奥健夫・滋賀県立大学工学研究科教授が最新の物理学を使って、医療・生命

・意識・スピリチュアルについてやさしく解説する。「奥先生は原子核を研究している工学博士。目に見えない素粒子から人間の生命や意識がどう見えるのか、興味深い話が聞けると思います」

ほかに一般演題が40題近く予定されている。